

会社概要

社名／東洋合成工業株式会社
設立／1954年（昭和29年9月27日）
本社／〒272-0012
千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055
資本金／1,618百万円（2006年4月1日現在）
事業内容／有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
画像形成用の感光性材料等の製造並びに販売
電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
倉庫業、貨物運送取扱業
従業員数／343名（2006年3月31日現在）

事業所

本社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055

東京営業所

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目13番1号（八丁堀東興ビル2階）
TEL：03-3552-3200 FAX：03-3552-2575

ヨーロッパ営業所

Teleport Towers. Kingsfordweg 151,1043GR
Amsterdam, The Netherlands.
Phone：+31 (0) 20-491 9509
Fax：+31 (0) 20-491 7340

高浜油槽所

〒272-0125 千葉県市川市高浜町7番地
TEL：047-395-2151 FAX：047-396-7049

市川工場

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-2121 FAX：047-327-8067

千葉工場

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-51
TEL：0478-87-1111 FAX：0478-87-0333

感光材研究所

〒270-1609 千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番地1
TEL：0476-98-3361 FAX：0476-98-3364

プロセス開発研究所

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-57
TEL：0478-87-1525 FAX：0478-87-0333

千葉第二工場

〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1-55
TEL：0478-87-1701 FAX：0478-87-1721

2006 環境レポート ENVIRONMENTAL REPORT

お問い合わせ先

東洋合成工業株式会社 経営企画部 環境安全室
〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL.047-327-8075 FAX.047-327-8055

URL:<http://www.toyogosei.co.jp>

このパンフレットはエコマーク認定の再生紙を使用しています。
この印刷物は環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。



 東洋合成工業株式会社

環境方針

ご挨拶 ----- 1

サイトレポート 環境・安全に関する取り組み

市川工場 ----- 2

千葉工場 ----- 3

高浜油槽所 ----- 4

感光材研究所 ----- 5

環境に対する影響

大気・水質 ----- 6

PRTR ----- 7

エネルギー ----- 8

廃棄物及び再資源化 ----- 9

労働安全衛生の取り組み ----- 10

化学品の安全管理および最近の動向 ----- 12

地域社会とのコミュニケーション ----- 13

環境方針

東洋合成工業株式会社は電子産業の部品製造材料の生産、有機溶剤の精製、リサイクルならびに化学品の合理的な物流等を通して、社会に貢献しております。我々はその企業活動の中で地域社会に対する環境負荷の低減を常に指向し、地域社会のみならず地球環境の保全に全力を傾倒いたします。

1. 目標

環境保全活動の取り組みは経営の重要課題の1つと位置付け、各事業所では環境影響評価を重視し企業活動を推進いたします。即ち「この地球環境を健全な状態に保ち、将来の世代に引き継ぐ」

2. 法の遵守

環境保全法の遵守は勿論のこと、地域社会の要求事項に対しても真摯に取り組み、環境の保全に努めます。

3. 具体的な取り組み

- 1) 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また環境への負荷、排出量を公表いたします。
- 2) 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー原単位の低減に努めます。
- 3) 廃棄物の発生量削減と、自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R (Reduce, Reuse, Recycle) を推進いたします。
- 4) 新規化学物質の生産については法の遵守のもとに、従業員の健康に及ぼす影響とともに環境に対する評価も十分に行い、その結果を公表いたします。
- 5) 生産される製品の収率を向上させることにより、原料、エネルギー、時間など全ての要素の効率を高め、省資源化に努めます。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長 木村正輝

ご挨拶



東洋合成工業株式会社
代表取締役社長 木村正輝

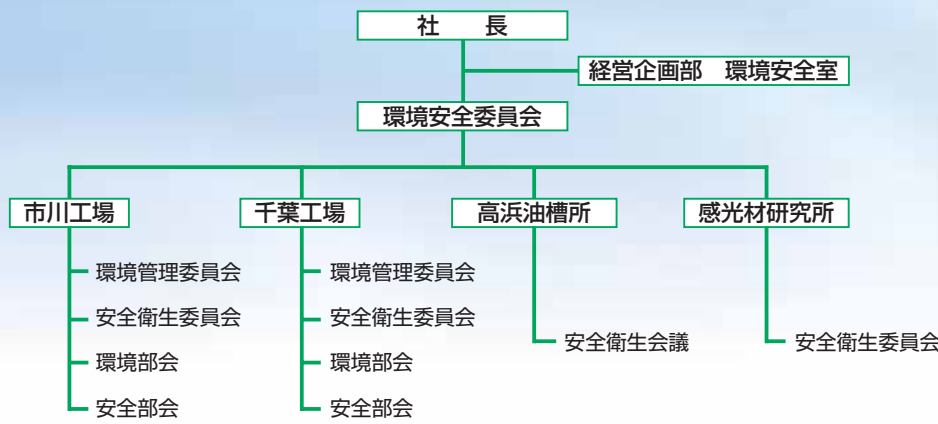
近年地球温暖化の影響が、日本列島に襲来する台風が増加しています。この現象は日本だけではなく、米国でもカリブ海に発生するハリケーンが増え大型化しています。特に昨年は、ジャズで有名なニューオーリンズがハリケーンに襲われ、堤防が壊れ、町が水没し多数の難民が発生しました。アメリカの気象庁は今年もクラス5規模のハリケーンが発生すると予測しています。このように気象変動が激しくなった理由は、世界的な石油消費の増加による、大気中のCO₂濃度上昇が原因とされています。

しかし、消費者はますます快適な生活を求め、自製で電気、燃料の消費の増加を止めるのは困難な状況です。個々で解決するのが難しいこの問題を解決するため、炭酸ガスの排出権取引により全世界で炭酸ガスの排出を減らそうとしています。日本は発展途上国に省エネ技術を援助し、エネルギー効率を向上させ炭酸ガス排出を減少させて、日本の排出量増加を相殺しようとしています。企業活動の活発化も同様に、環境負荷を増大させており、企業の地球環境改善への寄与が急務になっています。

我々東洋合成工業は、高性能の感光材を供給し、半導体産業の発展を支えています。半導体は、コンピュータに組み込まれ、世界の生産現場を効率化し、省資源・省エネルギーが進むことで、地球環境に貢献しています。また、昨今需要が高まっているVOC (揮発性有機化合物) の回収精製は、地球環境への化学物質放出を直接的かつ効率的に抑制します。我々は、こうした省資源・省エネルギーの間接的貢献に止まらず、生産における化学製品の収率を向上し、省エネを徹底して環境負荷を減らしていきます。

今期、市川工場は悪臭防止対策、千葉工場はジオキサン大気放出削減対策に多額の資金を投入し、環境改善を実施していきます。一度環境汚染を起こしてしまうと、その回復には汚染を予防する以上の膨大な労力と費用・時間が必要となります。我々はこの経験を反省し、今後はさらに環境に配慮した設備を設置することに取り組み、地球環境保全への貢献度を高めてまいります。

環境・安全管理の組織



市川工場 千葉県市川市上妙典1603番地



タンクのVOC調査



エコノマイザー

工場長
山本生夫



ベンゼン排出量の削減

主要排出口へのPSA設備設置が完了し、運転条件の設定ができたことにより2005年度の大気への排出量はおおむね20t/年まで削減することができました。

来年度はPSAの保守管理を確実に実施し、排出量を10t/年まで削減に努めます。

省エネ対策

昨年度の省エネ診断で省エネ効果が大きいと判断された蒸気ボイラーに2005年12月末、エコノマイザーを設置した結果、1月以降の重油使用量が削減しました。また、スチームトラップの保守、ドレン回収配管の新設などを行い、蒸気ドレンの回収率を向上させました。

来年度は装置洗浄に使用する蒸気量の最適化を図り、蒸気使用量の削減に努めます。

臭気物質の拡散防止

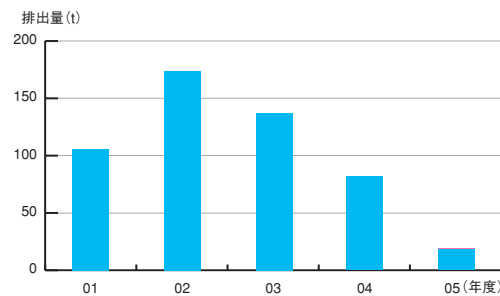
市川工場では香料材料を製造しているため、臭気の強い物質を取り扱っています。2005年に実施したスクラバーの改善により、同一作業中の臭気物質濃度は1/50に削減できました。今後もよりいっそう作業標準の徹底を図るとともに、2006年度から2007年度にかけて抜本的な臭気物質排出抑制対策を行います。

千葉県VOC実態調査に協力

千葉県より規制対象未達の施設を含めVOCの実態調査を実施したとの要請があり、千葉県環境財団によるタンクとPSAの排出口の濃度測定が行なわれました。

VOC排出削減対策の1つとしてタンクローリー・ISOコンテナでの入出荷時のVOC削減のため、パーパーリターン配管をタンクに設置していきます。

■PRTR ベンゼングラフ 市川工場 千葉工場



千葉工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1-5-1



安全体験実技講習会

工場長
小暮憲治



静電気対策

2005年8月の小火事故以来、安全対策委員会を設置して2006年3月までに計6回の対策会議を開催して工場内のあらゆる危険作業の洗い出しとその安全対策を検討し実施しました。

2005年12月に外部の講師を招いて静電気に関する『安全体験実技講習会』を開催しました。また、2006年1月には外部有識者による静電気対策現地調査を実施しました。

今後も従業員の安全教育の実施および従業員の安全確保のための設備の設置に積極的に取り組んでまいります。

- 1) 2006年5月に最小着火エネルギーに関する社内教育を行います。
- 2) 2006年8月に可燃性ガス検知設備設置工事を行います。
- 3) 2006年8月に二酸化炭素消火設備設置工事を行います。

地下水汚染防止対策

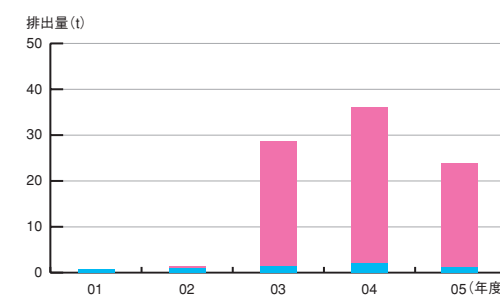
千葉工場では「環境・安全に関する取り組み」として地下水汚染防止対策と静電気による事故対策に取り組まれました。

地下水汚染防止対策に関しては、2005年末に工場周辺民家井戸の一部から水道法規制値(50ppb)超のジオキサンが検出されたため、東庄町への報告と応急処置として周辺民家へ水道水の引込工事を実施しました。また、工場周辺の住民のみなさまへ地下水汚染に関する説明会を開催しました。

2003年8月に構内の一部地下水から微量のジオキサンが検出されて以来、千葉県環境研究センターからアドバイスを頂きながら構内にバリア井戸を設置して汚染した地下水の工場外流出防止を実施してきました。今後も地下水汚染防止対策の強化と大気汚染防止対策にも積極的に取り組んでまいります。

- 1) 工場敷地内地下水のモニタリングと汲上げによる浄化作業に取り組んでいます。
- 2) 工場周辺民家井戸のモニタリングと地下水流れ方向の調査を進めています。
- 3) 2006年8月までに排ガス燃焼設備を設置して大気汚染防止対策に取り組めます。

■PRTR ジオキサングラフ 市川工場 千葉工場



高浜油槽所 千葉県市川市高浜町7番地



油槽所全景



吹き付けアスベスト



高浜油槽所長
石亀義之

廃油の分別処理

高浜油槽所では環境負荷の削減を図るため、廃油の種類、発生量を把握して分別回収を行い、一部を再資源化しました。その結果廃油の30% (16t) を市川工場のボイラー燃料としてリサイクルすることができました。



ローリー充填所落下防止安全バー

安全衛生管理

高浜油槽所は安全衛生管理の活動として毎月安全衛生会議を開催しています。安全衛生会議では高所作業の現状が議論され見直しを行い、ローリー作業中の墜落、転落防止のためにローリー充填所23レーン全てに落下防止用の安全バーを設置しました。

また、年1回ローリー会社と安全研修会を開催しています。2005年11月には高浜油槽所において、ローリー運送会社 (33社参加) を集め安全研修会を実施しました。テーマはローリーの安全荷役作業としました。ローリー荷役規程を基に作業分担範囲並びに確認・監視体制を明確にし、作業の安全と災害予防に取り組んでまいります。

石綿障害予防規則が2005年7月1日施行に伴いアスベスト対策として、「吹き付けアスベスト」使用状況の確認調査のため吹き付け材のサンプルを採取して依頼分析を行いました。その結果アスベストは含有していませんでした。

安全衛生会議は毎月1回実施しています。その中でヒヤリ・ハット事例を取り上げ、事故、トラブルを未然に防止する活動を決め作業や環境変化による潜在的危険要因を予知できるように教育しています。今後は大規模災害に備え、危機管理マニュアルの整備と災害時に迅速かつ安全に対処できるよう従業員教育の徹底を図っていきます。

感光材研究所 千葉県印旛郡印旛村若萩四丁目2番地1号



感光材研究所全景



感光材研究所長
山中智隆

安全・衛生の事例

感光材研究所では、安全衛生委員会を毎月1回定例開催しています。ヒヤリハット、危険予知、5S及び毎週の所内安全パトロールをはじめとする職場安全活動及び教育・訓練を実施し、労働災害を減少させてきました。

新入社員については、オブザーバーとして安全衛生委員会に参加させ、安全衛生に関する教育を行っています。

安全性情報

感光材研究所では、機能性化学品の研究開発を行っています。新規化学品の研究が主なテーマであるために、新規化学品原料に関しては、MSDSを入手し、危険性を充分認識した上で使用方法を決定しています。

研究所開発品の多くは、次の顧客で反応・加工等の処理を経て最終製品となります。

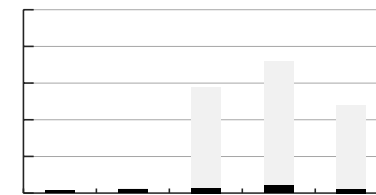
研究所では、お客様が弊社開発品を取り扱う際の安全に考慮して、全ての開発品に関してMSDSを作成し、お客様に危険・有害性情報を適宜提供しています。また、MSDSデータベースを作成し、製品の安全性情報の収集と整備を行い、イントラネットの端末からでも最新情報が取り出せるようにしています。すべての実験設備に屋上の排気処理装置と直結した排気システムを完備しており、実験者の安全確保はもとより屋外近隣地区に対する無害・無臭の対策を徹底しています。



安全パトロール

«'»Ô
 «?»Ô
 ô ç t
 «PZ€t

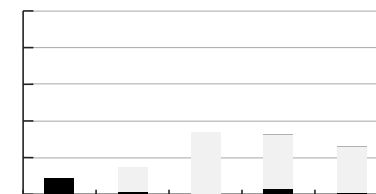
Ù '©±i



Ù #ŽİçPÊÚ”



Ù ´«ééÝ»i



Ù ž «æçŽ¼ç

